

# 持続可能な文化財の保存活用の好循環に関する調査研究

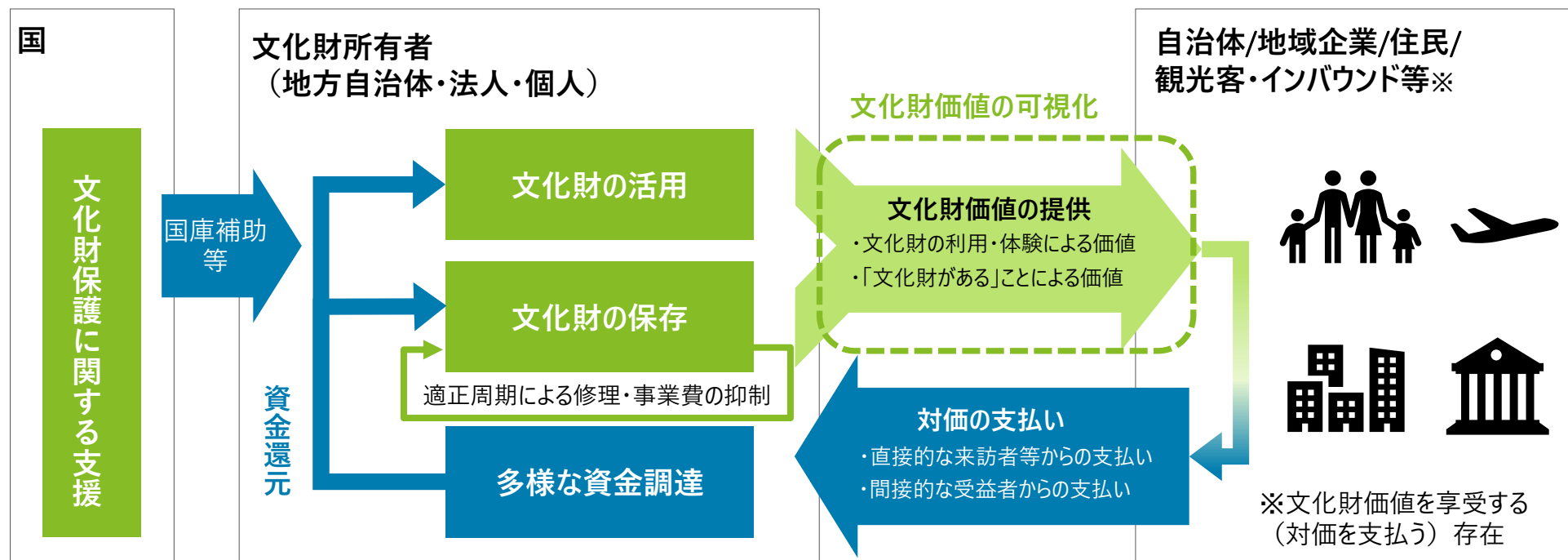
## 目的

- 近年の文化政策においては、文化の本質的価値を生かして、社会的・経済的価値を創出し、その対価を本質的価値の向上のために再投資するという好循環の創出が強く求められている。また、文化財が次世代への継承の危機に瀕している現状に鑑みれば、このような文化財の保存と活用の好循環を持続可能な形で広く実現していくことが急務である。この際、中長期的には非経済的価値の間接的な提供も含めた社会との関係性の構築・充実に取り組んでいくことが重要である。
- また、文化財については、「文化財の匠プロジェクト」（令和３年１２月 文部科学大臣決定）に基づき、適正周期による保存修理を目指しているが、必ずしも実現できていない。このような現状を打破するためには、文化財が大きく損傷してから修理するのではなく、必要十分な維持管理を適時に行うことで事業費全体を抑制しつつ、適正周期における保存修理を実現していく必要がある。
- そこで本事業では、持続可能な文化財の保存と活用の好循環の実現とそのために必要となる文化財の適正周期による保存修理・適時の維持管理の実現を目指し、その検討の基礎となる調査研究を実施する。

## 期間

令和5年12月28日～令和6年3月31日

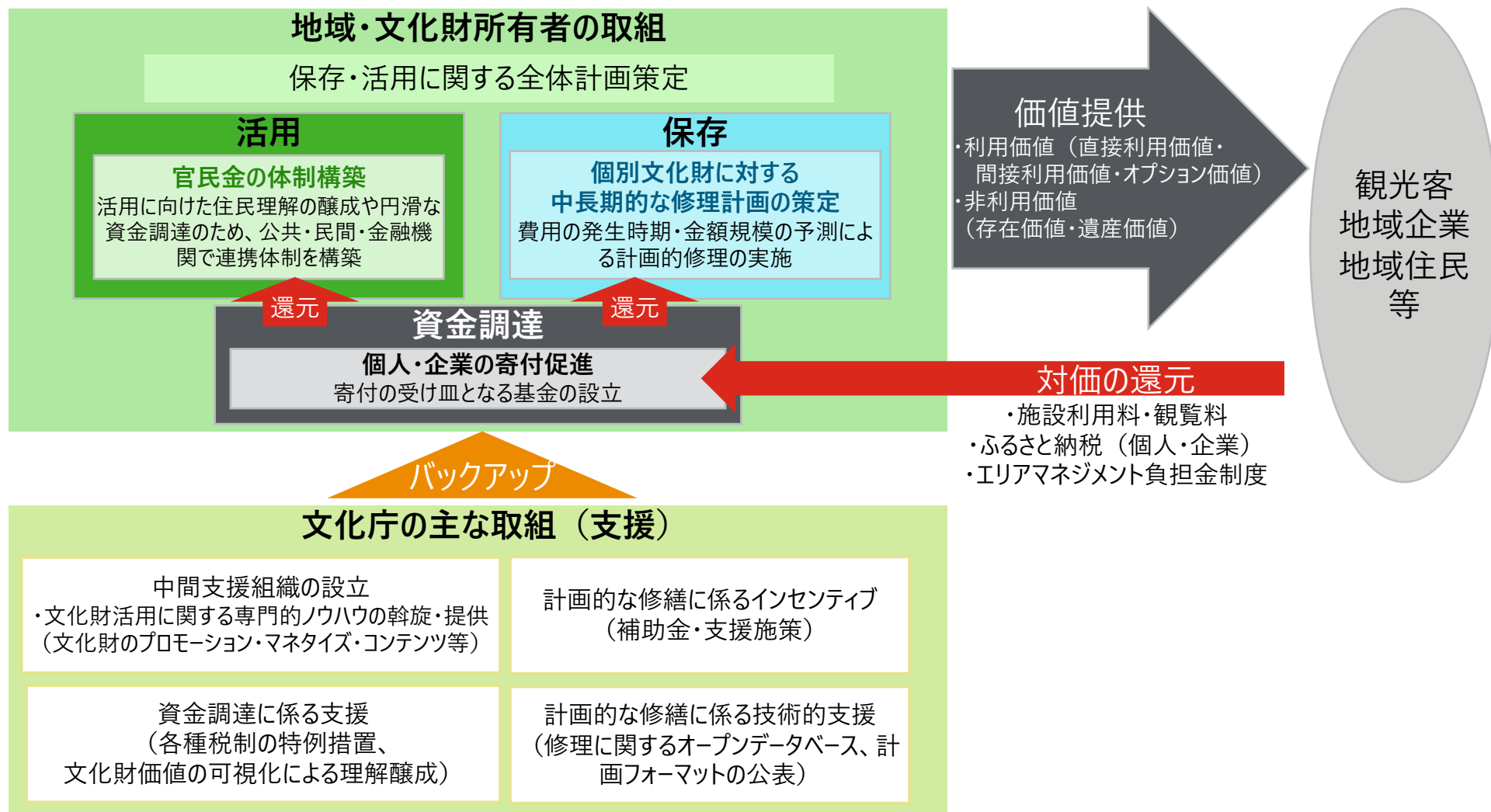
文化財に対する対価を文化財に再投資する好循環の創出に向けて、本調査内で整理した知見を踏まえ、具体的な中長期マネジメントのイメージ図及び取組内容を整理します



具体的な全体像の整理、実現に向けた施策の検討

中長期の文化財マネジメントとして、文化財を計画的に修理し、活用による収益や社会的価値の見える化による対価を還元して、保存の原資とする循環を形成することが肝要です

## 中長期マネジメントの全体像



特に活用に関しては、文化財所有者・管理者単独での検討が困難であるため、文化財活用に関する専門家等により構成される中間支援組織によるバックアップが有効です

## 中間支援組織イメージ

